

汚水処理施設共同整備事業
運営管理業務委託契約書（案）

令和 5 年 11 月

能 勢 町

収 入
印 紙

運 営 管 理 業 務 委 託 契 約 書

1	業 務 名	
2	業 務 場 所	大阪府豊能郡能勢町下田119-31 他
3	工 期	本 契 約 締 結 日 か ら 令 和 年 月 日 ま で
4	業 務 委 託 料	百万 千 円
	うち取引に係る 消 費 税 及 び 地 方 消 費 税 の 額	
5	契 約 保 証 金	
6	適 用 除 外 条 項	

上記の工事について、発注者と受注者は、各々対等な立場における合意に基づいて、別添の条項（適用除外条項は、上記6のとおり。）によって公正な請負契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

この契約の締結を証するため、本書2通を作成し、発注者及び受注者が記名押印の上、各1通を保有する。

令 和 年 月 日

発 注 者 所 在 地 大阪府豊能郡能勢町宿野28番地
代 表 者 能 勢 町 長 上 森 一 成 印

受 注 者 所 在 地
商号又は名称
代 表 者 印

【能勢町し尿処理施設】

(単位：円、税抜)

年度	業務委託料 A	業務委託料 B			合計 (A+B)
	変動費 (予定額)	固定費 i	固定費 ii	計	
2025 年度 (令和 7 年度)					
2026 年度 (令和 8 年度)					
2027 年度 (令和 9 年度)					
2028 年度 (令和 10 年度)					
2029 年度 (令和 11 年度)					
2030 年度 (令和 12 年度)					
2031 年度 (令和 13 年度)					
2032 年度 (令和 14 年度)					
2033 年度 (令和 15 年度)					
2034 年度 (令和 16 年度)					
2035 年度 (令和 17 年度)					
2036 年度 (令和 18 年度)					
2037 年度 (令和 19 年度)					
2038 年度 (令和 20 年度)					
2039 年度 (令和 21 年度)					
合 計					

※1 固定費及び変動費は、契約書締結日における額であり、業務委託期間中、添付約款に従い、変更される。

※2 変動費は、計画処理量から算出しており、実際の支払いは、添付約款による。

【能勢浄化センター】

年度	業務委託料 A	業務委託料 B			合計 (A + B)
	変動費 (予定額)	固定費 i	固定費 ii	計	
2025 年度 (令和 7 年度)					
2026 年度 (令和 8 年度)					
2027 年度 (令和 9 年度)					
2028 年度 (令和 10 年度)					
2029 年度 (令和 11 年度)					
2030 年度 (令和 12 年度)					
2031 年度 (令和 13 年度)					
2032 年度 (令和 14 年度)					
2033 年度 (令和 15 年度)					
2034 年度 (令和 16 年度)					
2035 年度 (令和 17 年度)					
2036 年度 (令和 18 年度)					
2037 年度 (令和 19 年度)					
2038 年度 (令和 20 年度)					
2039 年度 (令和 21 年度)					
合 計					

※1 固定費及び変動費は、契約書締結日における額であり、業務委託期間中、添付約款に従い、変更される。

※2 変動費は、計画処理量から算出しており、実際の支払いは、添付約款による。

汚水処理施設共同整備事業 運営管理業務委託契約 約款

(総則)

- 第1条 発注者及び受注者は、この契約書（頭書を含む。以下同じ。）に基づき、要求水準書等（質問回答書、要求水準書、提案書 以下同じ。）に従い、日本国の法令を遵守し、この契約（この契約書及び要求水準書等を内容とする工事の請負契約をいう。以下同じ。）を履行しなければならない。
- 2 受注者は、表記の業務期間（以下、「業務委託期間」という。）中、表記の業務実施場所（以下「業務場所」という。）に立地する能勢町し尿処理施設及び能勢浄化センター（以下、「本施設」という。）にて、要求水準書等に示された本施設の運営に係る各業務（以下、「本業務」という。）を履行し、発注者は、本業務の履行が完了した部分の対価として、受注者に別紙内訳書「運営管理業務委託内訳書」のとおり委託料（以下、「運営管理業務委託料」という。）を支払うものとする。
- 3 契約書に定める請求、通知、報告、申出、承諾及び解除は、書面により行わなければならない。
- 4 契約書の履行に関して発注者と受注者との間で用いる言語は、日本語とし、契約書で用いる用語は、契約書に別段の定義がなされている場合又は文脈上別異に解すべき場合を除き、要求水準書等に定義された意味、又は次の各号所定の意味を有するものとする。
- (1) 「運営開始日」とは、令和7年（2025年）4月1日又は発注者が別途通知した日をいう。
- (2) 「質問回答書」とは、発注者が令和[]年（[]年）[]月[]日に公表又は通知した質問回答書をいう。
- (3) 「不可抗力」とは、暴風、豪雨、洪水、高潮、地すべり、落盤、地震、火災その他の自然災害、又は騒乱、暴動その他人為的な現象のうち、通常予見可能な範囲外のものであって、発注者及び受注者のいずれの責めにも帰すことのできないものをいう。
- (4) 「法令変更」とは、法律、政令、規則又は条例その他これに類するものの変更をいい、国又は地方公共団体の権限ある官庁による通達、ガイドライン又は公的な解釈等の変更を含む。
- (5) 「提案書」とは、要求水準書等に従い受注者を含む事業者が作成し発注者に提出した令和[]年（[]年）[]月[]日付提案書類（その後の変更を含む。）をいう。
- 5 契約書に基づく金銭の支払に用いる通貨は、日本円とする。
- 6 契約書の履行に関して発注者と受注者との間で用いる計量単位は、要求水準書等に特別な定めがある場合を除き、計量法（平成4年法律第51号。）に定められたものによるものとする。
- 7 契約書における期間の定めについては、本約款又は要求水準書等に定める場合を除き、民法（明治29年法律第89号。）及び商法（明治32年法律第48号。）の定めるところによるものとする。
- 8 契約書は、日本国の法令に準拠するものとする。
- 9 契約書に係る訴訟については、第一審の専属的合意管轄裁判所を本町を管轄する地方裁判所とすることに合意する。
- 10 受注者は、要求水準書等に記載された情報及びデータのほか、契約書締結時に利用しうる全ての情報及びデータを十分に検討した上で契約書を締結したことをここに確認する。受注者は、かかる情報及びデータの未入手があったときにおいても、当該未入手を理由として、本業務の困難性、又はコストを適切に見積ることができなかつた旨を主張することはできない。ただし、受注者の当該情報及びデータの未入手が、要求水準書等の誤記等発注者の責に帰すべき事由に基づく場合は、この限りでない。

(契約書の目的)

- 第2条 契約書は、発注者と受注者が相互に協力し、本施設を適正かつ円滑に管理するために必要な事項を定めることを目的とする。

(公共性及び民間事業の趣旨の尊重)

- 第3条 受注者は、本施設が公共施設であることを踏まえ、その設置目的を十分に理解し、その趣旨を尊重するものとする。
- 2 発注者は、本業務が営利を目的とする民間事業者によって遂行されることを十分に理解し、その趣旨を尊重するものとする。

(契約の保証)

- 第4条 受注者は、契約書第6条に定める期間（以下、「運営管理委託期間」という。）における各事業年度（当該年の4月1日から翌年の3月31日までの1年間の期間をいうものとする。以下同じ。）に関し、当該事業年度の開始日まで、次の各号のいずれかに掲げる保証を付さなければならない。なお、第4号の場合においては、その保険証券を発注者に寄託しなければならない。

- (1) 契約保証金の納付
- (2) 契約保証金に代わる担保となる有価証券等の提供
- (3) 契約書による債務の不履行により生ずる損害金の支払いを保証する銀行、発注者が確実と認める金融機関又は保証事業会社（公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和 27 年法律第 184 号）第 2 条第 4 項に規定する保証事業会社をいう。以下同じ。）の保証
- (4) 契約書による債務の不履行により生ずる損害を填補する履行保証保険契約の締結

2 運営管理委託期間中、前項の保証に係る契約保証金の額、保証金額又は保険金額（以下、「保証の額」という。）は、運営管理委託期間中に発注者が支払う運営管理業務委託料を 15 で除した額の 10 分の 1 以上の金額（以下、「保証対象額」という。）とする。

3 第 1 項第 1 号の契約保証金には利息を付さないものとする。

4 第 1 項の規定により、受注者が同項第 2 号又は第 3 号に掲げる保証を付したときは、当該保証は、契約保証金に代わる担保の提供として行われたものとし、同項第 4 号に掲げる保証を付したときは、契約保証金の納付を免除する。なお、同項第 3 号に掲げる保証及び第 4 号に掲げる保険は、単年度又は複数年度のものによる運営管理委託期間中における更新を認めるものとする。

5 保証対象額の増減があった場合には、保証の額が変更後の対象保証額に達するまで、発注者は、保証の額の増額を請求することができ、受注者は、保証の額の減額を請求することができる。

（業務遂行）

第 5 条 受注者は、基本契約及び契約書に基づき、要求水準書等の定めるところに従って、自らの責任及び費用において、本業務を履行するものとする。

2 受注者は、法令、条例、規則、要綱等、本約款、要求水準書等に基づき、本業務を誠実かつ適正に遂行しなければならない。

3 受注者は、本業務その他受注者が契約書の締結及び履行のために必要とする全ての許認可を適時に取得し、これを維持し、また必要な届出等を行わなければならない。ただし、発注者の単独申請によるべきものについては、この限りでない。

4 受注者は、発注者による許認可の申請及び交付金の申請等について、自己の費用負担により書類の作成等の必要な協力を発注者の要請に従って行うものとする。

5 受注者は、本業務の遂行にあたり、労働安全衛生法（昭和 47 年法律第 57 条。）、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号。）、下水道法（昭和 33 年法律第 79 号）その他の環境保全関係法令を含む関係法令、関連規制等を遵守するものとする。受注者が関係法令又は関係規制等を遵守しなかったことは、受注者による契約書の債務不履行を構成するものとする。

6 受注者は、要求水準書等に記載する基準値（ただし、提案書における自主規制値がこれを上回る場合は、提案書における当該数値とする。以下同じ）を確実に確保するものとする。受注者による要求水準書等に記載する基準値の未達は、受注者による契約書の債務不履行を構成するものとする。

7 発注者は、本業務に関する周辺住民からの苦情等に対応し、その解決を図るものとする。この場合、受注者は、かかる紛争の解決につき、発注者に協力するものとする。受注者は、発注者が締結する住民協定等を十分理解してこれを遵守するものとし、常に適切に本業務の遂行を行うことにより、住民の信頼と理解及び協力を得るよう努力するものとする。

8 受注者は、善良なる管理者の注意義務をもって本業務を遂行するものとする。

9 受注者は、本業務の遂行に必要な限度でのみ、業務場所内の備品等を無償で使用することができる。

10 受注者は、運営管理委託期間中、業務場所内の備品等を常に良好な状態に保つものとする。

11 備品等が経年劣化等により本業務遂行の用に供することができなくなった場合、受注者は、当該備品等を購入又は調達するものとする。この場合、受注者によって購入又は調達された当該備品等の所有権は、発注者に帰属するものとする。なお、備品等の購入又は調達に要する一切の費用は、別段の合意がない限り、運営管理業務委託料に含まれているものとし、運営管理業務委託料の支払のほか、受注者は、備品等の購入又は調達に関し、如何なる名目によっても、何らの支払も発注者に請求できないものとする。

12 受注者は、故意又は過失により備品等を毀損滅失したときは、これを弁償し、又は自己の費用で当該備品等と同等の機能及び価値を有するものを購入又は調達しなければならない。

13 受注者による契約書上の義務の履行に要する光熱水費その他の費用（放送法（昭和 25 年法律第 132 号。）による受信料を含む。）は、別段の合意がない限り、受注者の負担とする。

（期間）

第 6 条 契約期間及び運営管理委託期間は、次のとおりとする。

契約期間 本契約として成立した日から令和 22 年（2040 年）3 月 31 日までの期間
運営管理委託期間 令和 7 年（2025 年）4 月 1 日から令和 22 年（2040 年）3 月 31 日までの期間

（権利・義務の譲渡の禁止）

第 7 条 受注者は、契約書に基づき生ずる権利若しくは義務又は契約上の地位を第三者に譲渡し、継承させ、担保権を設定し、又はその他の処分（これらの予約も含む。）をしてはならない。ただし、事前に発注者の承諾を得た場合は、この限りでない。

2 受注者は、本業務の遂行により生じた成果物（未完成の成果物及び本業務を行う上で得られた記録等を含む。）を第三者に譲渡し、貸与し、又は担保権を設定し、若しくはその他の処分（これらの予約も含む。）をしてはならない。ただし、事前に発注者の承諾を得た場合は、この限りでない。

（特許権等の使用）

第 8 条 受注者は、発注者から提供される情報、書類、図面その他のものを除き、この規定に従って、本施設を稼働させ処理対象物等処理するために必要な特許権等の実施権・使用権その他ノウハウ等の活用に必要な諸権利を、自己の責任及び費用負担において、取得・維持するものとし、関係者との調整を行わなければならない。

2 受注者は、運営管理業務委託料には、前項の規定に基づく特許権等の実施権又は使用権の取得の対価並びに前条第 2 項の規定に基づく成果物の使用に対する対価を含むものであることを確認するものとする。発注者は、発注者が受注者に実施又は使用させる特許権等に関しては、その実施又は使用許諾の対価を受注者に請求しない。

（知的財産権）

第 9 条 契約書に基づき、発注者が受注者に対して提供した情報、書類、図面等に関する著作権その他の知的財産権（発注者に権利が帰属しないものを除く。）は、発注者に属する。ただし、発注者は、受注者に対して、契約書の目的を達成するために必要な限度で、当該提供物を無償で使用させることができる。

2 受注者は、受注者が発注者に対して提供した情報、書類、図面等に関し、第三者の有する著作権及びその他の知的財産権を侵害するものでないことを発注者に対して保証する。発注者は、受注者が発注者に対して提供した情報、書類、図面等の著作権及びその他の知的財産権は、発注者の裁量により利用する権利及び権限を有するものとし、その利用の権利及び権限は、契約書の終了後も存続するものとする。

3 受注者は、自ら又は権利者をして、次の各号に掲げる行為をし、又はさせてはならない。ただし、あらかじめ発注者の承諾を得た場合は、この限りでない。

(1) 前項に規定する著作物に係る著作権その他の知的財産権を第三者に譲渡し、又は承継させること。

(2) 著作権法（昭和 45 年法律第 48 号）第 19 条第 1 項又は第 20 条第 1 項に規定する権利を行使すること。

(3) 前項に規定する著作物の内容を公表すること。

(4) 前項に規定する著作物を他人に閲覧させ、複製させ、又は譲渡すること。

4 発注者は、次の各号に掲げる場合、受注者の作成した成果物を公開することができる。ただし、前項の規定による場合において、開示される成果物に受注者の営業上の秘密が含まれるときは、発注者は、受注者の事前の書面による承諾を得るものとする。

(1) 法令に基づく場合

(2) 発注者に提出する場合

(3) 広報に使用する場合（発注者が認めた公的機関による使用を含む。）

（一括再委託等の禁止）

第 10 条 受注者は、業務の全部を一括して第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。

2 受注者は、業務の一部を第三者（以下総称して「再委託先等」といい、提案書に基づいて再委託された構成企業も含むものとする。）に委託し、又は請け負わせようとするときは、あらかじめ、発注者の書面による承諾を得なければならない。

3 発注者は、受注者に対して、再委託先等に対する委託又は請負に係る契約条件（契約代金、スケジュールその他の条件を含むがこれに限らない。）その他必要な事項の説明を求めることができる。

4 第 2 項の規定による委託又は請負は、全て受注者の責任及び費用において行うものとし、再委託先等の責めに帰すべき事由は、その原因及び結果の如何を問わず、受注者の責めに帰すべき事由とみなす。

5 第 2 項の規定により業務を委託され、又は請け負った再委託先等がさらに第三者に業務を委託し、又は請け負わせた場合（順次行われる再委託、下請負も同様に扱われる。）、かかる第三者の使用も全て受注者の責任及び費用において行うものとし、当該第三者の責めに帰すべき事由は、その原因及び結果の如何を問わず受注者の責めに帰すべき事由とみなす。

6 受注者は、前項の規定による場合のほか、再委託先等その他の本業務の一部を受託し、又は請け負った第三者をその当事者又は関係者とする紛争、訴訟等に起因して、契約書に定める業務が遅延した場合、その他の増加費用及び損害の一切を負担しなければならない。

（受注者に対する措置要求）

第 11 条 発注者は、受注者の役職員、使用人若しくは前条第 2 項又は第 5 項の規定により受注者から業務を委託され、若しくは請け負った再委託先等その他の第三者が、その業務の実施につき著しく不相当と認められるときは、受注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

2 受注者は、前項の規定による請求があったときは、当該請求に係る事項に対する措置について発注者が合理的に満足する内容で決定し、請求を受けた日から 10 日以内に発注者にその結果を通知しなければならない。

3 受注者は、発注者の職員がその職務の執行につき著しく不相当と認められるときは、発注者に対して、その理由を明示した書面により、必要な措置をとるべきことを請求することができる。

4 発注者は、前項の規定による請求があったときは、当該請求に係る事項について受注者が合理的に満足する内容で決定し、請求を受けた日から 10 日以内に受注者にその結果を通知しなければならない。

（監督職員）

第 12 条 発注者は、監督職員を置いたときは、その氏名を受注者に通知しなければならない。監督職員を変更したときも、同様とする。

2 監督職員は、契約書の他の条項に定めるもの及び契約書に基づく発注者の権限とされる事項のうち発注者が必要と認めて監督職員に委任したもののほか、次に掲げる権限を有する。

(1) 契約書の履行についての受注者又は受注者の現場代理人に対する指示、承諾又は協議

(2) 契約書に基づく業務の実施のための詳細図等の作成及び交付又は受注者が作成した詳細図等の承諾

(3) 契約書に基づく業務の管理、立会い、業務の実施状況の検査又は業務用材料の試験若しくは検査（確認を含む。）

3 発注者は、2 名以上の監督職員を置き、前項の権限を分担させたときにあってはそれぞれの監督職員の有する権限の内容を、監督職員に契約書に基づく発注者の権限の一部を委任したときにあっては当該委任した権限の内容を、受注者に通知しなければならない。

4 第 2 項の規定に基づく監督職員の指示又は承諾は、原則として、書面により行わなければならない。

5 契約書に定める催告、請求、通知、報告、申出、承諾及び解除については、契約書に定めるものを除き、監督職員を経由して行うものとする。この場合においては、監督職員に到達した日をもって発注者に到達したものとみなす。

（監督職員の立会い及び記録の整備等）

第 13 条 受注者は、契約書において監督職員の立会いの上実施するものと指定された業務については、当該立会いを受けて実施しなければならない。

2 受注者は、前項に規定するほか、発注者が特に必要があると認めて契約書において見本又は業務写真等の記録を整備すべきものと指定した業務の実施をするときは、契約書に定めるところにより、当該工事写真等の記録を整備し、監督職員の請求があったときは、当該請求を受けた日から 7 日以内に提出しなければならない。

3 監督職員は、受注者から第 1 項の立会いを請求されたときは、当該請求を受けた日から 7 日以内に応じなければならない。

4 前項の場合において、監督職員が正当な理由なく受注者の請求に応じないため、その後の工程に支障をきたすときは、受注者は、監督職員に通知した上、当該立会いを受けることなく、業務を実施することができる。この場合において、受注者は、当該業務の実施を適切に行ったことを証する業務写真等の記録を整備し、監督職員の請求があったときは、当該請求を受けた日から 7 日以内に提出しなければならない。

5 第 2 項又は前項の場合において、業務写真等の記録の整備に直接要する費用は、受注者の負担と

する。

(本業務の範囲)

第 14 条 本業務の範囲及び細目は、要求水準書等に定めるとおりとする。

- 2 前項の定めにかかわらず、受注者は、本施設の機能を維持するため又は本施設を円滑に運営し、かつ維持管理するために必要な措置を適時に講ずるものとする。
- 3 受注者は、整備事業者が実施する本施設の試運転において、必要な協力を行うものとする。
- 4 受注者は、要求水準書等で定められた本業務に必要な燃料、薬品、油脂等及び備品、消耗品、予備品を調達し、本業務の履行に支障なく使用できるよう適切に管理しなければならない。
- 5 受注者は、本業務の遂行に当り、発注者の廃棄物処理事業、下水道事業全体に配慮のうえ、発注者が指示する要請に協力しなければならない。
- 6 受注者は、発注者が行う運営管理に係る官公署等への申請等に全面的に協力し、発注者の指示により必要な書類、資料等を提出しなければならない。なお、運営管理に係る申請等に関しては、受注者の責任と負担により行うものとする。
- 7 受注者は、施設の運営管理に関して、発注者及び所轄官庁等が報告、記録、資料提供等を要求する場合は、速やかに対応しなければならない。なお、所轄官庁からの報告、記録、資料提供等の要求については発注者の指示に基づき対応するものとする。
- 8 受注者は、契約期間中に発注者が実施する工事において、必要な協力を行うものとする。

(業務範囲の変更)

第 15 条 発注者は、必要がある場合には、受注者に対する通知をもって前条に規定する本業務のいずれか又はその全ての範囲の変更に係る協議を求めることができる。

- 2 受注者は、前項の通知を受けた場合は、協議に応じなければならない。
- 3 本業務の範囲の変更及びそれに伴う契約金額の変更等については、前項の協議において決定するものとする。

(業務の基準等)

第 16 条 受注者は、運営管理委託期間中、生活環境影響調査、公害防止基準、環境保全関係法令等を遵守して、本施設の本業務を遂行しなければならない。

- 2 受注者は、本業務の実施に先立ち、運営開始日以降本事業が終了する日までの期間を通じた本業務の遂行に関し、要求水準書等に示された水準に対して提案書において提案した事項(水準)を反映したマニュアル類(以下、「業務マニュアル」という。)を作成し、発注者に提出した上で、発注者の承諾を得るものとする。受注者は、発注者承諾を得たマニュアルは、運営管理委託期間にわたり内容の変更を行わないものとする。ただし、発注者の書面による承認を得た場合は、この限りでない。

(業務実施計画書)

第 17 条 受注者は、各事業年度が開始する 30 日前(ただし、最初の事業年度に関しては、運営開始日の 90 日前)(その日が閉庁日の場合には翌開庁日)までに、要求水準書等に従って、本業務に係る業務実施計画を作成の上、発注者に提出し、各事業年度の開始前に発注者の承諾を受けなければならない。受注者は、発注者の承諾を受けた業務実施計画書を変更しようとする場合には、変更箇所、変更理由を書面により提出し、発注者の承諾を受けなければならない。なお、業務実施計画書の様式、記載方法等については、発注者と受注者との協議により定めるものとする。

- 2 発注者は、業務実施計画書の確認又はその変更の承諾を行ったこと自体を理由として、本業務の全部又は一部について何らの責任を負担するものではない。

(運転計画及び運転管理マニュアル)

第 18 条 受注者は、契約書、要求水準書等に従い、本施設の年間運転計画及び月間運転計画を作成し、これに従って運転管理業務を実施しなければならない。受注者は、年間運転計画については、対象年度の前年の 10 月末日までに、月間運転計画については、対象月の前月の 20 日までに、それぞれ作成しなければならない。かつ、かかる作成期限までに発注者に提出の上、承諾を得なければならない。

- 2 受注者は、本施設の運転操作に関して、運転管理上の目安としての管理値を設定するとともに、本施設に関し、操作手順、方法について基準化した運転管理マニュアル(以下、「運転管理マニュアル」という。)を運営開始日の 90 日前までに作成し、発注者に提出した上で承諾を得るものとする。受注者は、運転管理業務の実施について、運転管理マニュアルに従うものとする。なお、受注者は、作成した運転管理マニュアルについて、本施設の運転にあわせて随時改善しなければならない。

3 年間運転計画及び月間運転計画並びに運転管理マニュアルの記載事項等の詳細は、発注者と受注者との協議により定める。

(業務報告書)

第19条 受注者は、要求水準書等に定めるとおり、本業務の遂行状況に関し、日報、月報、年報その他の報告書(以下、「業務報告書」という。)を作成し、それぞれ所定の提出期限までに、発注者に提出するものとする。ただし、日報については、受注者の事業所内に運営管理委託期間にわたって保管し、発注者の要請に応じて閲覧又は謄写に供すれば足りるものとする。なお、業務報告書の様式、記載方法等については、発注者と受注者とで協議により定めるものとする。

2 受注者は、前項に定める業務報告書のほか、要求水準書等及び業務マニュアルに従い、各種の記録、台帳、報告書等を作成し、受注者の事業所内に運営管理委託期間にわたって保管しなければならない。受注者は、発注者の要請があるときは、それらの記録、台帳、報告書等を発注者の閲覧又は謄写に供しなければならない。

(契約書と業務内容が一致しない場合の改善義務)

第20条 受注者は、本業務の内容が契約書、要求水準書等、又は発注者の指示若しくは発注者と受注者との協議の内容に適合しない場合において、発注者が業務の改善を請求したときは、当該請求に従わなければならない。

2 前項の場合において、当該不適合が発注者の指示による場合その他発注者の責に帰すべき事由による場合は、発注者は、必要に応じて、運営管理委託期間又は運営管理業務委託料を変更するものとし、受注者に損害を及ぼしたときは当該損害を賠償しなければならない。

(車両・重機等)

第21条 本業務の実施に必要な車両・重機等については、受注者が受注者の責任及び費用負担において、本業務の遂行に支障のないものを用意する。当該車両・重機等に係る維持管理費用等は、受注者の負担とする。なお、受注者が用意した車両・重機等を発注者が使用する場合、あらかじめ受注者と協議し、受注者の承諾を得た上で使用するものとする。ただし、発注者が現有しているものについては発注者の承諾を得た上で使用できるものとする。

(災害発生時などの協力)

第22条 発注者と受注者は、災害その他不測の事態が発生した際には、協力して対応にあたるものとする。

2 災害その他不測の事態により、要求水準書に示す計画搬入量及び性状を超える処理対象物が発生する等の状況が生じた場合において、その処理を発注者が実施しようとするときは、受注者は、その処理に最大限の協力を行う。その場合、発注者は、受注者に発生した合理的な範囲で追加費用を受注者に支払う。

(定期整備計画の作成)

第23条 受注者は、能勢町し尿処理施設の効率的な更新整備及び保全管理を行うため、定期整備計画を作成し、発注者の承諾を得なければならない。

2 受注者は、作成した定期整備計画を変更した場合には、速やかに発注者に報告し、承諾を得なければならない。

3 定期整備計画の作成期限、使用期間、記載事項等の詳細は、発注者及び受注者の協議により決定する。

(施設見学者等への対応)

第24条 本施設の見学を希望する個人及び団体(行政視察を除く。)からの申込受付、日程調整は受注者が行い、真摯に対応すること。なお、行政視察については発注者が主体となって対応するが、受注者は、専門的な説明等が必要な場合には説明補助を行う等、発注者に協力するものとする。

(住民等への対応)

第25条 受注者は、常に適切に本業務を遂行し、発注者の要請があるときは発注者ととも周辺住民等に対して本施設の運転状況の説明を行い、周辺住民等の理解及び協力を得られるよう努めるものとする。

2 受注者は、本施設の利用者に対して、適切に対応しなければならない。

3 受注者は、本施設に対して周辺住民等による電話照会、訪問等があった場合には、適切に対応しなければならない。なお、周辺住民等により本施設に関する意見等があった場合には、受注者は、速やかに発注者に報告し、発注者と受注者とで協議の上、適切に対応し、その結果を文書にて発注者に提出しなければならない。

(運営体制の整備)

第 26 条 受注者は、本業務の遂行に先立って、要求水準書等に基づく本業務の実施体制の整備に必要な人員及び有資格者を確保し、契約書の終了まで、これを維持する。

2 受注者は、前項において確保した人員に対し、本業務を遂行するために必要な訓練、研修等を行い、運営開始日における本施設の正式稼働に支障のないよう準備しなければならない。

3 受注者は、前項に定める研修等を完了した後、要求水準書等に従い、本業務における責任者、管理者その他の業務担当者を配置して本業務の実施体制を整備し、発注者に届出を行うものとする。

4 発注者は、前項に定める届出を受領した後、本業務の実施開始に先立って、要求水準書等に従った実施体制が整備されていることを確認するため、要求水準書等で定める方法又は任意の方法により当該本業務の実施体制を確認することができる。

5 受注者は、本業務の実施体制を、発注者の承認を受けずに変更してはならない。

6 受注者は、実施体制を変更した場合、速やかに変更後の実施体制を発注者に届け出るものとする。
(緊急時の組織体制の整備等)

第 27 条 受注者は、災害等の緊急時において、二次災害の防止に努めるものとする。

2 受注者は、緊急時における対応マニュアル（以下、「緊急対応マニュアル」という。）を作成し、発注者に提出し、承諾を得るものとする。受注者は、緊急時において、緊急対応マニュアルに従った適切な対応を行うものとする。

3 受注者は、緊急対応マニュアルを必要に応じて随時改善しなければならない。受注者が緊急対応マニュアルを変更した場合には、速やかに発注者に提出し、その承諾を得なければならない。

4 受注者は、自主防災組織及び警察、消防、発注者等への連絡体制を整備した上で、事業所内での防災体制を整備し、発注者に報告するものとする。なお、連絡体制を変更した場合は速やかに発注者に報告しなければならない。

5 受注者は、定期的に防災訓練等を行わなければならない。また、訓練の開催については、事前に本施設の関係者等に連絡し、参加について協議する。

6 本施設において事故が発生した場合、受注者は、緊急対応マニュアルに従い、直ちに事故の発生状況を発注者に連絡し、事故時の状況、対応内容、事故時の運転記録等を速やかに発注者に報告する。受注者は、当該報告後、早期に対応策等を記した事故報告書を作成し、発注者に提出する。

(試運転及び引渡性能試験、教育訓練等)

第 28 条 整備事業者が実施する能勢町し尿処理施設の試運転及び引渡性能試験の実施にかかる業務については、受注者がこれを整備事業者から受託して行うことができる。

2 受注者は、整備事業者と協力して、運営事業開始の準備を行うとともに、整備事業者から必要な教育訓練を受けるものとする。

(発注者による業務遂行状況のモニタリング)

第 29 条 発注者は、別紙 1 記載のモニタリング実施要領等に従い、本業務の遂行状況並びに本施設の維持管理及び運営状況のモニタリングを行う。

2 発注者は、前項の規定に基づくモニタリングのほか、受注者による本業務の遂行状況等を確認することを目的として、随時、本施設へ立ち入る等必要な行為を行うことにつき申出を行うことができる。また、発注者は、受注者に対して本業務の遂行状況等について説明を求めることができる。

3 受注者は、発注者から前項の申出又は請求を受けた場合は、合理的な理由がある場合を除いて当該申出又は請求に応じなければならない。

4 発注者は、第 1 項の規定に基づく本事業の遂行状況等の確認を理由として、本業務の全部又は一部について、何らの責任を負担するものではない。

(発注者による業務の是正勧告)

第 30 条 前条の規定によるモニタリングの結果、受注者による本業務の遂行が基本契約、契約書、要求水準書等若しくは提案書又は業務マニュアルに定める水準を満たしていない場合は、発注者は、受注者に対して、別紙 1 記載のモニタリング実施要領に従って必要な是正勧告その他の措置を講じることができるものとする。この場合において、受注者は、当該措置が講じられた後に提出する要求水準書等に規定する各種業務報告書において、発注者が講じた措置に対する対応状況を記載することにより報告を行うものとする。

(本施設に係る計測)

第 31 条 受注者は、運営管理委託期間中、自己の負担において、要求水準書等、業務マニュアル及び業務実施計画書に従い、自ら又は法的資格を有する第三者に委託することにより、本施設に係る計測を実施しなければならない。発注者は、事前に受注者に通知した上で、当該計測に立ち会うことができる。

2 発注者は、前項の計測について、計測項目のいずれかの測定値が、別紙 2 に規定する規制値（要求水準書等に記載する規制値（ただし、提案書における自主規制値がこれを上回る場合は、提案書における当該数値とする。以下同じ））に近い値を示し、規制値を超える懸念があるものと合理的に判断した場合、又は計測項目のいずれかの測定値が不連続的な値を示し本施設の安定的な稼働に支障が生じる懸念があると合理的に判断した場合は、受注者に追加計測を請求できるものとし、その詳細は、発注者が測定値に応じて決定するものとする。

（規制値の未達成）

第 32 条 第 29 条によるモニタリング又は前条の計測等の結果、別紙 2 に示す規制値が達成されていないことが判明した場合には、発注者又は受注者は、速やかにその旨を相手方に通知するとともに、受注者は、原因の究明に努め、要求水準書を達成するよう本施設の補修、運営管理業務の改善等を行わなければならない。

2 発注者及び受注者は、協議により、本施設の稼働状況に応じて、規制値を見直すことができる。

（要求水準書等の未達成）

第 33 条 第 29 条によるモニタリング又は第 31 条の計測等の結果、前二条に規定する項目以外の項目等について、受注者による本業務の遂行が要求水準書等若しくは提案書又は業務マニュアルに定める水準を満たしていない場合は、発注者は、受注者に対して、別紙 1 記載のモニタリング実施要領等に従って必要な是正勧告その他の措置を講じることができるものとする。この場合、受注者は、当該措置が講じられた後に提出する要求水準書等に定める報告又は記録等において、発注者が講じた措置に対する対応状況を記載することにより報告を行うものとする。

2 前項の場合、発注者は、必要と認めるときは、受注者に本施設の運転の停止を指示することができ、受注者は、これに従わなければならない。

3 第 1 項において要求水準書等の未達成が発注者の指示により生じた場合、その他発注者の責に帰すべき事由により生じた場合は、発注者は、必要に応じて委託料を変更するものとし、受注者に損害を及ぼしたときは、第 60 条の規定に基づき当該損害を賠償しなければならない。

（性能未達期間中の処理対象物の処理）

第 34 条 運営管理委託期間中、能勢町し尿処理施設の運転停止又は処理能力の低下により、本施設に搬入された処理対象物が受入供給設備において受入可能な貯留量を超えるおそれが生じた場合、受注者は、発注者に対し、速やかにその旨通知する。発注者は、廃棄物収集車両の配車調整により、受入可能な貯留量を超えた処理対象物を処理し得る他の廃棄物処理施設に運搬し、処理対象物の代替処理を行うものとする。（以下、「緊急代替処理」という。）受注者は、発注者のかかる代替処理に対して、最大限の協力を行う。

（性能未達期間中に生じる費用の負担）

第 35 条 発注者の責めに帰すべき事由により、本施設の運転停止、監視強化、処理能力の低下又は基本性能の不充足等の事態が生じた場合、発注者は、運営管理業務委託料のうち固定費（第 41 条第 3 項に規定する控除を受けた後の固定費とする。）、及び変動費の支払を行う他、緊急代替処理を行うことによって生じる追加費用、本施設の運転再開のための修理費等の追加費用並びに受注者に生じた損害を合理的な範囲で負担する。ただし、受注者が善良なる管理者の注意義務に違反したことに起因して発生又は拡大した損害のうち受注者の帰責性の割合に相当する部分については、受注者の負担とする。

2 受注者の責めに帰すべき事由により、本施設の運転停止、監視強化、処理能力の低下又は基本性能の不充足等の事態が生じた場合（搬入管理（処理対象物に含まれる処理困難物及び処理不適物の排除作業等を含む。）を適切に行わなかったことに起因する場合を含む。）、それにより生じる追加費用及び責任は受注者が負担する。発注者は、運営管理業務委託料のうち固定費（第 41 条第 3 項に規定する控除を受けた後の固定費とする。）、及び変動費の支払を行う（ただし、運営管理業務委託料の減額及び契約書の解除に関する手続は、第 43 条及び第 51 条の定めに従う。）。発注者が緊急代替処理を行うことによって生じる追加費用、本施設の運転再開のための修理費等の追加費用及び発注者に生じた損害は受注者が負担する。

3 不可抗力により、本施設の運転停止、監視強化、処理能力の低下又は基本性能の不充足等の事態が生じた場合は、発注者は、運営管理業務委託料のうち固定費（第 41 条第 3 項による控除を受けた固定費とする。）、及び変動費の支払を行う。ただし、発注者が緊急代替処理を行うことによって生じる追加費用及び本施設の運転再開のための修理費については、第 46 条の規定に従う。

（異常事態への対応）

第 36 条 受注者は、本施設の運営管理業務において、故障、規制値の未達、不可抗力による損害発

生、その他要求水準書等に定める水準の未達成等の事態（以下総称して又は個別に「異常事態」という。）が発生したときは、要求水準書等に従い、運転を停止し、又は監視を強化しなければならない。

- 2 受注者は、本施設に係る異常事態の原因の究明及びその責任の所在の分析等を行い、その結果を発注者に提出するものとする。
- 3 発注者は、前項に基づく受注者による原因の究明及び責任の所在の分析とは別に、独自に異常事態発生に係る事実関係の調査、原因の究明及び責任の所在の分析等を行うことができる。この場合、受注者は、発注者に対する資料等の提出、事実関係の説明、試料等の提供等の協力を行う。
- 4 本施設が計画外において停止の状態に陥った場合についても、その原因の究明等について前二項の規定を準用する。

（臨機の措置）

第 37 条 受注者は、事故及び災害の防止等のため必要があると認めるときは、臨機の措置を講じなければならない。

- 2 前項の場合、受注者は、その講じた措置の内容を発注者に直ちに通知する。
- 3 発注者は、事故、災害防止その他本施設の運転管理業務を行う上で、特に必要があると認めるときは、受注者に対して臨機の措置を講じることを請求することができる。
- 4 受注者が臨機の措置を講じた場合において、当該措置に要した費用のうち、受注者の責めに帰すべき事由により生じたもの及び受注者が通常予測し、対処できる事由により生じたものについては、受注者が負担するものとし、それ以外の事由により臨機の措置を講じた場合の費用は、発注者が負担するものとする。ただし、不可抗力により臨機の措置を講じた場合には、第 46 条に基づき発注者及び受注者が負担するものとする。

（搬入管理）

第 38 条 受注者は、安全に搬入が行われるように協力を行うものとする。

- 2 受注者は、能勢町し尿処理施設に搬入される処理対象物について、善良なる管理者の注意義務を持って処理困難物及び処理不適物の混入を防止し、混入されていた場合には排除を行うものとする。また、速やかに発注者に報告するとともに、発注者が行う指導に協力する。
- 3 受注者は、搬入される処理対象物の中から処理困難物及び処理不適物を発見した場合、発注者に報告し、その処分方法について協議の上、処分を行うものとする。やむを得ず能勢町し尿処理施設内で処理できないものについては発注者が外部にて処理・処分を行うまでの間、発注者の指示に従って発注者又は発注者が指定する業者へ引き渡すまで場内にて適切に保管する。なお、場内積込み作業までを受注者が行い、場内にて発注者又は発注者が指定する業者に引き渡すものとする。
- 4 処理不適物等の混入を原因として、プラント設備に故障等が生じ、当該故障等の修理等のために追加費用が発生した場合、発注者及び受注者若しくは発注者又は受注者の責めに起因するものについては、発注者及び受注者若しくは発注者又は受注者における帰責性の所在及び割合に応じて、第 35 条第 1 項又は第 2 項の規定に基づき、発注者及び受注者若しくは発注者又は受注者が負担し、不可抗力に起因するものについては、第 35 条第 3 項ただし書及び第 46 条の規定に従う。上記のいずれによっても追加費用の負担につき決することができない場合、発注者と受注者との協議により定めるものとする。

（処理量）

第 39 条 能勢町し尿処理施設に搬入される処理対象物の量が、要求水準書等に提示している計画処理量に対し増減する場合は、変動費の処理単価をもって変動費を算定する。なお、増減分については当該事業年度の最終月に精算を行うこととする。

（性状）

第 40 条 能勢町し尿処理施設に搬入される処理対象物の性状が、要求水準書等に定める性状の範囲内にとどまっている限り、受注者は、処理対象物の性状の変動を原因とする運営管理業務委託料（変動費の処理単価の見直しを含む。）の変更、その他費用の負担を請求することはできない。

- 2 要求水準書等に定める性状の範囲を逸脱した処理対象物が搬入された場合において、要求水準書等に定める性状の範囲を逸脱した処理対象物の処理のために要した費用の増加分を受注者が合理的に説明し、発注者が当該説明の内容に同意したときは、受注者は、要求水準書等に定める性状を逸脱した処理対象物の処理に要する費用の増加分について、当該事業年度の最終月に精算を行うことを請求できる。
- 3 前項に規定する以外の処理対象物の性状に係る項目の変動による運営管理業務委託料の見直しは行なわない。

- 4 本施設に搬入された処理対象物の性状が要求水準書等に定める性状の範囲内か否かの判断は、一事業年度を単位として当該事業年度全体で行う。かかる判断に必要なデータの収集、検査等は、全て受注者の費用において実施する。
- 5 前項に規定するデータの収集、検査等の具体的な実施方法、実施頻度等は、契約書に基づき、発注者と受注者が協議して定める。
- 6 受注者は、前二項の規定に基づき得られたデータ及び検査結果等を、発注者と受注者が協議して定める頻度及び内容で、発注者に報告しなければならない。
(運営管理業務委託料等の支払)

- 第 41 条 発注者は、本業務の遂行の対価として、受注者に対して、別紙 3 記載の算定方法及びスケジュールに従い、運営管理業務委託料を支払うものとする。当該運営管理業務委託料には、本業務の遂行にあたって必要となる一切の費用が含まれるものとし、別段の定めがある場合を除くほか、報酬、費用、手当、経費その他名目の如何を問わず、受注者は、発注者に対し、運営管理業務委託料以外に何らの支払いも請求できないものとする。
- 2 運営管理業務委託料の支払いは、年 12 回の後払いとする。受注者は、当該月の業務報告書、業務委託部分の完了届（以下、「業務委託部分完了届」という。）等、業務遂行を証明するものを発注者に提出しなければならない。発注者は、業務報告書及び業務委託部分完了届等を承認後、運営管理業務委託料を支払うものとする。
 - 3 第 1 項の定めにかかわらず、受注者が本施設の運転を停止した場合、発注者は、理由の如何にかかわらず、運営管理業務委託料のうちの固定費から当該運転停止により受注者が支払を免れた費用を控除して支払を行うことができるものとする。この場合、受注者の責めに帰すべき運転停止に基づく発注者の受注者に対する損害賠償請求を妨げない。
 - 4 第 1 項の定めにかかわらず、発注者は、運営管理業務委託料の支払にあたり、当該支払時において受注者の発注者に対する支払債務が存在する場合、当該支払債務相当額を運営管理業務委託料から差し引いた上で、これを支払うことができる。
 - 5 発注者は、運営管理業務委託料の支払を遅延したときは、支払うべき額について遅延日数に応じ、政府契約の支払遅延防止等に関する法律（昭和 24 年法律第 256 号。以下、「遅延防止法」という。）第 8 条第 1 項の規定により決定された率（以下、「法定率」という。）の割合で計算した額の遅延損害金を支払うものとする。
(運営管理業務委託料の改定)

第 42 条 発注者及び受注者は、社会経済状況の変化に応じて、別紙 3 記載のとおり運営管理業務委託料を改定できる。

- 2 前項又はその他契約書に別段の規定がある場合を除き、運営管理業務委託料は変更されない。
(運営管理業務委託料の減額等)

- 第 43 条 第 29 条に基づく発注者による業務遂行状況のモニタリングその他により、本業務について要求水準書等に定める内容及び水準を満たしていない事項が存在することが判明した場合、発注者は、別紙 1 に定めるところに従って運営管理業務委託料を減額することができるものとする。
- 2 受注者が作成した各業務報告書に虚偽の記載があることが、運営管理業務委託料の支払後に判明した場合、発注者は、受注者に対し、当該虚偽記載がなければ発注者が減額し得た運営管理業務委託料相当額の返還を請求することができる。この場合、運営管理業務委託料を発注者が受注者に支払った日から、発注者に返還するまでの日数につき、法定率の割合で計算した額の遅延損害金を支払うものとする。
(法令変更)

第 44 条 運営管理委託期間中に法令変更が行われた場合、受注者は、次に掲げる事項について発注者に報告するものとする。

- (1) 本業務に関して受注者が受けることとなる影響
 - (2) 本業務に影響を及ぼす法令変更に関する事項の詳細
- 2 発注者は、前項の定めによる報告に基づき、契約書の変更その他の報告された事態に対する契約書の変更や費用負担等の対応措置について、速やかに受注者と協議するものとする。
 - 3 前項に定める協議を行ったにもかかわらず、協議開始から 60 日以内に対応措置について合意が成立しない場合、発注者は、当該法令変更への合理的な対応措置を受注者に対して通知し、受注者は、これに従い本業務を継続するものとし、この場合に生じる追加費用の負担は、次のとおりとする。
(1) 発注者は、次の各号所定の法令変更に起因する追加費用を負担する。

ア 本業務に直接関係する法令変更（ただし、税制度に関する法令変更を除くものとする。）
イ 税制度に関する法令変更のうち、本業務に直接関係する税制度の新設・変更に関するもの
(2) 受注者は、次の各号所定の法令変更に起因する追加費用及び損害を負担する。

ア 第(1)号ア所定の法令変更以外の法令変更（ただし、税制度に関する法令変更を除くものとする。）

イ 第(1)号イ所定の法令変更以外の税制度に関する法令変更

4 法令変更により、本業務の継続が不能となった場合又は本業務の継続に過分の費用を要する場合の処理は、第 58 条の規定に従う。

（不可抗力発生時の対応）

第 45 条 運営管理委託期間中に不可抗力が発生した場合、受注者は、不可抗力の影響を早期に除去すべく早急に対応措置をとり、不可抗力により発生する損害・損失及び追加費用を最小限にするよう努力しなければならない。

（不可抗力によって発生した費用等の負担）

第 46 条 不可抗力の発生に起因して受注者に損害・損失又は追加費用が発生した場合、受注者は、その内容及び程度の詳細を記載した書面をもって発注者に報告するものとする。

2 発注者は、前項の報告を受けた場合、損害等の状況の確認を行うものとし、発注者と受注者との協議により、不可抗力への該当性の判定、契約書の変更及び費用負担等について決定するものとする。

3 前項に定める協議を行ったにもかかわらず、不可抗力が生じた日から 60 日以内に契約書の変更及び費用負担等についての合意が成立しない場合、発注者は、当該不可抗力への合理的な対応措置を受注者に対して通知し、受注者は、これに従い本業務を継続するものとし、この場合に生じる追加費用の負担は、別紙 4 に記載する負担割合によるものとする。

4 不可抗力により、本業務の継続が不能となった場合又は本業務の継続に過分の費用を要する場合の処理は、第 58 条の規定に従う。

（不可抗力による一部の業務遂行の免除）

第 47 条 前条第 2 項に定める協議の結果、不可抗力の発生により本業務の一部の遂行が不能となったと認められる場合、受注者は、当該不能となった限度において本業務を遂行する義務を免れるものとする。

2 前項の定めに従って受注者が本業務を遂行する義務の一部を免れた場合、発注者は、受注者との協議の上、受注者が当該業務を遂行する義務を免れたことにより支払が不要となった費用相当額を運営管理業務委託料から減額することができるものとする。

（本施設の改良保全）

第 48 条 発注者及び受注者は、運営管理委託期間中、本施設の運営管理業務に関連して、著しい技術又は手法の革新等がなされた場合、当該技術革新等に基づく新しい技術又は手法等（以下、「新技術等」という。）の導入について検討し、本施設の改良保全提案を行うものとする。

2 前項の検討に係る費用は受注者が負担する。ただし、発注者が負担することが合理的と発注者が認める費用については、発注者が負担する。

3 第 1 項の提案の結果、作業量の軽減、省力化、作業内容の軽減、使用する薬剤その他消耗品の使用量の削減等により運営管理業務委託料を低減できることを発注者又は受注者が明らかにした場合、発注者及び受注者は、当該新技術等の導入及び運営管理業務委託料の減額について協議するものとする。

（本事業終了時の取扱い）

第 49 条 発注者は、運営管理委託期間満了日の 36 か月前までに、本事業終了後の本施設の運営の継続に係る協議について、受注者に申出ることができる。

2 前項の規定による申出に応じて、発注者と受注者は、本施設の運営の継続に係る協議を行うものとし、契約書の継続及び受注者以外の第三者への委託するために必要な事項を確認する。当該協議の結果にかかわらず、受注者は、発注者の請求に応じて、必要な情報及び資料の提供を行わなくてはならない。

3 発注者が本事業終了後における本施設の運営を公募に供することが適切でないと判断した場合、発注者は、運営管理委託期間満了日の 24 か月前までに、契約書の継続に関して受注者に協議を申出ることができる。この場合、受注者は、発注者との協議に応じなければならないものとする。

4 協議の結果、受注者が運営管理委託期間満了後において本施設の運営を継続することとなった場合、受注者は、運営管理委託期間満了日の 6 か月前までに、運営管理委託期間満了時の翌事業年度

に係る事業の実施計画を発注者に提出するものとする。また、当該協議の結果にかかわらず、受注者は、次の各号に係る情報及び資料を含む発注者が請求する情報及び資料の提供を行わなくてはならない（提出期限は運営管理委託期間満了日の12か月前を目途とする。）。

- (1) 人件費
- (2) 運転経費
- (3) 維持補修費（点検、検査、補修、更新費用）
- (4) 用役費
- (5) その他必要な資料

5 運営管理委託期間満了日の12か月前までに前項の規定による契約書の継続に係る合意が整わない場合には、契約書は、運営管理委託期間満了日をもって終了するものとする。

6 この条の規定に基づき契約書の延長が行われる場合には、運営管理業務委託料を含め、必要な契約の変更を行うものとする。

（本事業終了時の明け渡し条件）

第50条 運営管理委託期間が満了し、かつ、前条の規定に基づく契約書の延長が行われなかった場合、受注者は、契約書に基づき、本施設を発注者に明け渡す。

2 発注者は、基本性能が満足していることを確認するため、運営管理委託期間満了日前に、本施設の機能確認及び性能確認を実施する。

3 受注者は、要求水準書等の規定に従い、運営管理委託期間満了に先立って、受注者の責任及び費用負担により第三者機関による機能検査を、発注者の立会いの下に実施しなければならない。

4 受注者は、前項の規定に基づく機能検査の結果、本施設が本事業終了後も継続して使用することに支障があることが判明した場合には、受注者の責任及び費用負担において、必要な補修を実施しなければならない。

5 受注者は、本事業終了後12か月の間に、本施設に関して受注者の責めに帰すべき事由に起因する要求水準書の未達が発生した場合には、自己の責任及び費用負担により改修等必要な対応を行う。本規定は、契約書が終了した後においても適用する。

6 本施設の明け渡し時その他の条件は、発注者と受注者との協議により定める。ただし、協議開始の日から30日以内に協議が整わない場合には、発注者が定め、受注者に通知する。

（発注者の解除権）

第51条 発注者は、必要と認めるときは、90日前までに受注者に通知することにより、契約書の全部を解除することができる。この場合、発注者は、合理的な範囲において、受注者に生じた損害を賠償する責を負う。

2 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、受注者に対し催告することなく、契約書を解除することができる。

- (1) 正当な理由なく、本業務に着手すべき期日を過ぎても本業務に着手しないとき。
- (2) 本業務を実施する上で必要な法令の定めによる資格、許認可若しくは登録等を取り消され、又は関係する官公庁より営業の停止を命ぜられたとき。
- (3) 受注者及び業務担当者その他使用人が発注者の指示監督に従わず、又は発注者の職務の執行を妨げたとき。
- (4) 第57条第1項または第58条の規定によらないで契約書の解除を申し出たとき。
- (5) 受注者又は受注者の代理人、支配人その他使用人若しくは公募の代理人として使用していた者が、契約書の公募に関して公正な執行を妨げ、又は公正な価格の成立を害し、若しくは不正の利益を得るために連合したと認められるとき。
- (6) 受注者が契約書に違反した状態となった場合において、発注者が第33条の規定に基づき、受注者に対して猶予期間を設けて是正を求めたにもかかわらず、当該猶予期間内に当該違反が治癒されないとき。
- (7) 受注者が作成した各業務報告書に、本業務に重大な影響を及ぼす著しい虚偽の記載があったとき。
- (8) 受注者が本業務を放棄したと認められるとき。
- (9) 受注者に係る破産、会社更生、民事再生又は特別清算のいずれかの手続について、取締役会において申立てを決議したとき、又は第三者により申立がなされたとき、若しくは受注者につき支払不能若しくは支払停止となったとき。
- (10) 受注者が地方自治法施行令（昭和22年政令第16号。）第167条の4第1項に規定する者に該当することとなったとき。

- (11) 前各号の他、契約書の重大な違反又は抵触があったとき。
- (12) 契約書上の義務の履行に重大な影響を及ぼす、又は及ぼす可能性のある法令等の違反をしたとき。
- (13) 受注者の責めに帰すべき事由により、契約書上の受注者の義務の履行が不能となったとき。

3 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、30日以内の期間を定めて、受注者に対し履行を催告し、当該期間内に履行がなされないときは、受注者に通知することにより契約書を解除することができる。なお、受注者は、発注者が請求した場合は、自己の責任及び費用負担において、発注者が指定する事業者に対して、本業務の一部又は全部を委託しなければならない。

- (1) 受注者が、本業務について発注者が通知する指摘事項について、遅滞なく対応策を示さないとき。
- (2) 受注者が、発注者が請求した日の翌日から起算して30日以内に、第63条の定めに従って保険契約を締結しないとき、又はこれを維持しないとき。
- (3) その他、受注者が契約書の義務を履行しないとき。

(発注者による解除の場合の違約金)

第52条 発注者が前条第2項及び第3項に基づき契約書を解除した場合には、受注者は、解除の日から運営管理委託期間満了日までの残期間に係る運営管理業務委託料（要求水準書等に定める各年度処理量（計画値）をもとに算出するものとする。）の10分の1に相当する金額、又は年間運営管理業務委託料（解除の日が属する事業年度の翌事業年度に予定する運営管理業務委託料とし、要求水準書等に定める各年度処理量（計画値）をもとに算出するものとする。）のうちいずれか高い方の金額を、違約金として、発注者の指定する期間内に支払わなければならない。この場合において、第4条に規定する契約保証金（契約保証金に代えて提供された担保又は保険会社から支払われる保険金を含む。以下本条において同じ。）があるときは、当該違約金の額から本条第2項に基づき充当された契約保証金の額を控除することができる。

2 発注者が前条に基づき契約書を解除した場合には、契約保証金は発注者に帰属する。発注者に帰属した契約保証金は、発注者に生じた損害の賠償又は前項の違約金に充当する。

3 第1項の規定により受注者が発注者に違約金を支払う場合において、発注者は、違約金支払請求権と受注者の運営管理業務委託料支払請求権その他の発注者に対する債権を相殺し、なお不足があるときはこれを追徴することができる。

4 前三項の規定は発注者の損害賠償請求権の行使を妨げるものではなく、第1項に定める違約金を超える損害が発注者に生じている場合には、発注者は、受注者に対して当該超過額について損害賠償を請求することができる。

(暴力団排除措置等に関する解除権)

第53条 発注者は、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、契約書を解除することができる。

- (1) 役員等（受注者が個人である場合にはその者を、受注者が法人である場合にはその役員又はその支店若しくは常時工事の請負契約を締結する事務所の代表をいう。以下この号において同じ）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員（以下この号において「暴力団員」という。）であると認められるとき。
- (2) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下この号において同じ。）又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められるとき。
- (3) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を与える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしたと認められるとき。
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与していると認められるとき。
- (5) 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。
- (6) 下請け契約又は資材、原材料の購入契約その他の契約に当たり、その相手が(1)から(5)までのいずれかに該当することを知りながら、当該者と契約を締結したと認められるとき。
- (7) 受注者が、(1)から(5)までのいずれかに該当する者を下請契約又は資材、原材料の購入契約その他の相手方としていた場合（(6)に該当する場合を除く）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求め、受注者がこれに従わなかったとき。
- (8) 暴力団又は暴力団員が経営に実質的に関与していると認められる者に業務委託料債権を譲渡したとき。

2 前項の規定により契約書が解除された場合においては、受注者は、運営管理業務委託料（総額）

の 10 分の 1 に相当する金額を違約金として発注者の指定する期間内に支払わなければならない。なお、本項の規定は、発注者に生じた損害額が本項に規定する違約金の額を超える場合において、発注者がその超える分について受注者に対し請求することを妨げるものではない。本項の規定により受注者が賠償金を支払った後に、実際の損害額が本項に規定する違約金の額を超えることが明らかとなった場合においても、同様とする。

- 3 前項の場合において、第 4 条の規定により契約保証金の納付又はこれに代わる担保の提供が行われているときは、発注者は、当該契約保証金又は担保をもって前項の違約金に充当することができる。

(談合等不正行為による発注者の解除権)

第 54 条 発注者は、本事業に関して、受注者が次の各号のいずれかに該当するときは、契約書を解除することができる。

- (1) 私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和 22 年法律第 54 号。以下、「独占禁止法」という。）第 3 条の規定により禁止される不当な取引制限を行ったとして独占禁止法第 7 条第 1 項又は第 2 項の規定による排除措置命令を受け、独占禁止法第 61 条第 2 項の規定により当該命令の効力が生じたとき（当該命令に係る行政事件訴訟法（昭和 37 年法律第 139 号）第 3 条第 1 項に規定する抗告訴訟を提起した場合は、その訴えについて請求棄却又は訴え却下の判決が確定したとき。次号において同じ。）。

- (2) 独占禁止法第 3 条の規定により禁止される不当な取引制限を行ったとして独占禁止法第 7 条の 2 第 1 項の規定による納付命令を受け、独占禁止法第 62 条第 2 項の規定により当該命令の効力が生じたとき。

- (3) 受注者（法人の場合にあつては、その役員又は使用人）が刑法（明治 40 年法律第 45 号）第 96 条の 6 若しくは第 198 条又は独占禁止法第 89 条第 1 項若しくは第 95 条第 1 項第 1 号の規定に違反し、同条の規定による刑が確定したとき。

- 2 前条第 2 項及び第 3 項の規定は、前項の規定により契約書が解除された場合について準用する。

(談合等不正行為による賠償の予定)

第 55 条 受注者は、契約書に関して、前条第 1 項各号のいずれかに該当するときは、発注者が契約を解除するか否かを問わず、第 52 条の規定に基づき支払う違約金のほか、賠償金として契約書による契約額の 10 分の 1 に相当する額を発注者の指定する期間内に支払わなければならない。

- 2 前項の規定は、契約書による履行が完了した後においても適用する。

- 3 前二項の規定は、発注者に生じた実際の損害額が第 1 項に規定する賠償金の額を超える場合においては、発注者がその超過分につき賠償を請求することを妨げるものではない。同項の規定により受注者が賠償金及び利息を支払った後に、実際の損害額が同項に規定する違約金の額を超えることが明らかとなった場合においても、同様とする。

- 4 前三項の場合において、受注者が特別目的会社であつて既に解散しているときは、当該特別目的会社の株主であつたすべての構成員に対して前項に定める額の賠償金及び利息の支払いを請求することができる。この場合においては、請求を受けた者はその額を連帯して発注者に支払わなければならない。

(発注者による一部解除権)

第 56 条 発注者は、必要と認めるときは、90 日前までに受注者に通知することにより、契約書の一部を解除することができる。この場合、発注者は、合理的な範囲において、受注者に生じた損害を賠償する責を負う。賠償金額については、発注者と受注者との協議により定めるものとする。

- 2 発注者が、前項に基づき契約書の一部を解除する場合には、当該一部解除により不要となる設備の利用停止に関し受注者と協議するものとし、受注者は、当該協議の結果に従って当該設備の利用停止に向けて必要な措置を講じる。

(受注者の解除権)

第 57 条 受注者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、発注者に通知することにより、契約書を解除することができる。

- (1) 前条第 1 項の規定による一部解除のため、運営管理業務委託料が 3 分の 2 以上減じたとき。

- (2) 発注者が契約書に違反し、その違反によって契約書の履行が不可能となったとき。

- (3) 発注者が契約書に基づく債務の履行を行わない事態を 60 日間継続したとき。

- 2 発注者は、前項の解除により受注者に損害が生じたときは、その損害を賠償する。賠償金額については、発注者と受注者との協議により定めるものとする。

(法令変更又は不可抗力の場合の解除)

第 58 条 発注者又は受注者は、法令変更又は不可抗力により、本事業の継続が不能となった場合又は本事業の継続に過分の費用を要することとなった場合には、契約書の終了に伴う権利義務関係等について相手方当事者と協議の上、契約書を解除することができる。この場合、発注者は、受注者により履行済みの本業務に対応する未払いの運営管理業務委託料を、速やかに受注者に支払う。解除により発注者又は受注者に発生した損害及び費用については、各自で負担するものとする。

(契約書の期間満了、解除等による終了に際しての処置)

第 59 条 契約書が解除された場合、契約書は、将来に向かって効力を失うものとする。

- 2 受注者は、契約書が終了する場合又は終了した場合（期間満了による終了及び解除による終了を含む。以下本条において同じ。）で、発注者が本施設に関する業務を継続しようとする場合には、発注者の要求に基づき、発注者が行う本業務を継承する事業者（以下、「後任事業者」という。）の選定に協力するとともに、後任事業者に対して本施設の適正な運転等に関する教育を行った上で、引継ぎを行うものとする。
- 3 受注者は、前項の場合において、発注者が要求するときには、発注者が後任事業者を選定し、後任事業者が本業務を継承するまで、契約書の終了にもかかわらず、本業務を継続することとする。
- 4 受注者は、第 2 項に規定する引継ぎが終了し、かつ第 6 項に規定する処置を終了したときは、後任事業者に対し、発注者が指定する期日までに、本施設を引き渡す。
- 5 発注者は、第 3 項の規定に基づき契約書の終了後において本業務を継続した場合、別紙 3 に準じて算定した運営管理業務委託料を、受注者が後任事業者への引継ぎを終了するまでの期間につき、受注者に支払う。この場合の支払条件等については、発注者と受注者との協議により定める。
- 6 受注者は、契約書の終了に際して、本施設内に受注者が所有又は管理する業務機械器具、仮設物その他の物件（受注者が本業務の一部を委託し又は請け負わせた再委託先等その他の者が所有又は管理するこれらの物件を含む。以下本条において同じ。）があるときは、当該物件の処置につき、発注者の指示に従わなくてはならない。発注者は、受注者に対して、期間を定めて、受注者の責任及び費用負担において当該物件を撤去し又は処分すべき旨を指示することができる。
- 7 発注者は、前項の場合において、受注者が、正当な理由なく期間内に当該物件の処置につき発注者の指示に従わないときは、受注者に代わって当該物件を処分する等、適切な処置を行うことができる。受注者は、この場合、発注者による処置について異議を申し出ることができず、また、発注者による処置に要した費用を負担しなければならない。
- 8 受注者は、第 2 項及び第 3 項に規定する本施設の運転等に関する教育及び本業務の引継ぎを、故意又は過失により怠った場合、当該怠りから生じた発注者の損害を賠償するものとする。

(損害賠償等)

第 60 条 本業務に関連して、発注者の責めに帰すべき事由により、受注者に損害が生じた場合、発注者は、受注者に対して、生じた損害を賠償する義務を負う。

- 2 本業務に関連して、受注者の責めに帰すべき事由により、発注者に損害が生じた場合、受注者は、発注者に対して、生じた損害を賠償する義務を負う。
- 3 契約書に定める運営管理業務委託料の減額は、前項に従った発注者の受注者に対する損害賠償の請求を妨げるものではなく、また運営管理業務委託料の減額を損害賠償の予定と解してはならない。

(所有権)

第 61 条 本施設（更新された部分、維持管理上必要に応じて追設された部分を含む。）の所有権は、発注者に帰属するものとする。受注者は、本業務の遂行に関連し、これに必要な限度においてのみ本施設に立ち入り、これを無償で使用する権利を有するものであり、その他、本施設に関していかなる権利も有しない。

- 2 発注者は、受注者に対し、受注者による本業務の遂行のために必要な限度で、本施設を運営管理委託期間中無償で使用させる。

(第三者への賠償)

第 62 条 本業務の遂行に関して、受注者の責めに帰すべき事由により第三者に損害が生じた場合、受注者は、当該損害を賠償しなければならない。ただし、第 63 条の定めるところに従って損害が保険金で賄われる場合は、この限りでない。

- 2 発注者は、前項の定めるところに従って受注者が賠償すべき損害について第三者に対して賠償した場合、受注者に対して、賠償した金額その他賠償に伴い発生した費用を求償することができるものとする。

(保険)

第 63 条 受注者は、本業務の遂行にあたって、運営管理委託期間の全期間にわたり、別紙 5 記載の

保険を付保し、かつ、維持するものとする。ただし、発注者が付保する必要がない旨を受注者に通知した場合は、この限りでない。受注者は、当該保険を付保した場合又は更新若しくは書替継続した場合には、速やかに当該保険の保険約款及び保険証券の写しを発注者に提出してその確認を受けるものとする。

2 発注者及び受注者は、相互に、相手方が前項の定めるところに従って付保した保険に係る保険金の請求を行うにあたって必要な支援を行うものとする。

(協議会の設置)

第 64 条 発注者と受注者は、本業務を円滑に遂行するため、情報交換及び業務の調整を図ることを目的として協議会を設置することができるものとする。設置する場合の詳細については、別途作成する設置要綱にて定める。なお、設置要綱の内容については、発注者と受注者との協議により定めるものとする。

2 発注者と受注者は、協議の上、前項の協議会に、関連する企業、団体、外部有識者を参加させることができるものとする。

(契約の変更)

第 65 条 本業務に係る前提条件又は本業務により達成すべき内容が変更したとき、その他特別な事情が生じたときは、発注者と受注者との協議の上、契約書の規定を書面にて合意することにより変更することができるものとする。

(情報通信の技術を利用する方法)

第 66 条 本約款において書面により行わなければならないこととされている催告、請求、通知、報告、申出、承諾、解除及び指示は、法令に違反しない限りにおいて、電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法を用いて行うことができる。ただし、当該方法は書面の交付に準ずるものでなければならない。

(秘密保持)

第 67 条 発注者及び受注者は、本事業に関連して相手方から受領した情報（以下、「秘密情報」という。）を秘密として保持するとともに、秘密情報につき責任をもって管理し、本事業の遂行以外の目的でかかる秘密情報を使用してはならず、基本契約に別段の定めがある場合を除いては、相手方の事前の承諾なしに第三者に開示してはならない。

2 次の情報は、前項の秘密情報に含まれないものとする。

(1) 開示の時に公知である情報

(2) 開示される前に自ら正当に保持していたことを証明できる情報

(3) 開示の後に発注者又は受注者のいずれの責めにも帰すことのできない事由により公知となった情報

(4) 発注者及び受注者が契約書に基づく秘密保持義務の対象としないことを書面により合意した情報

(5) 発注者、受注者が自ら公表した情報

3 第 1 項の定めにかかわらず、発注者及び受注者は、次の場合には相手方の承諾を要することなく、相手方に対する事前の通知を行うことにより、秘密情報を開示することができる。ただし、相手方に対する事前の通知を行うことが、権限ある関係当局による犯罪捜査等への支障を来す場合は、かかる事前の通知を行うことを要さない。

(1) 弁護士、公認会計士、税理士、国家公務員等の法令上の守秘義務を負担する者に開示する場合

(2) 法令に従い開示が要求される場合

(3) 権限ある官公署の命令に従う場合

(4) 発注者につき守秘義務契約を締結した発注者のモニタリング業務受託者に開示する場合

4 発注者は、前各項の定めにかかわらず、本事業に関して知り得た行政情報に含まれるべき情報に関し、法令その他発注者の定める諸規定の定めるところに従って情報公開その他の必要な措置を講じることができる。ただし受注者の営業秘密に該当する場合には、事前に協議を行うものとする。

5 本条に定める秘密保持義務は、契約書の終了後もその効力を有するものとする。

(個人情報の保護)

第 68 条 受注者は、契約書の履行にあたり、個人情報の保護に関する法律（平成 15 年法律第 57 号。）及び能勢町個人情報の保護に関する法律施行条例（令和 4 年条例第 22 号）の規定に従い、発注者が提供した資料等に記載された個人情報及び当該情報から受注者が作成又は取得した個人情報（以下、「個人情報」という。）の適切な管理のために、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 個人情報の保管及び管理について、漏洩、毀損、滅失及び改ざんを防止しなければならない。
- (2) 契約書の目的以外の目的に個人情報を利用してはならない。
- (3) 個人情報を第三者に提供し、又は譲渡してはならない。
- (4) 発注者の指示又は承諾があるときを除き、発注者から提供された個人情報が記録された文書等を複写し、又は複製してはならない。
- (5) 個人情報の授受は、発注者の指定する方法により、発注者の指定する職員と受注者の指定する者の間で行うものとする。
- (6) 契約書の履行が完了したときは直ちに、個人情報が記録された文書等を発注者に引き渡さなければならない。ただし、発注者が別に方法を指示したときは、当該方法によるものとする。
- (7) 本業務に従事する者に対し、本業務に従事している期間のみならず、及び従事しないこととなったとき以降においても、知り得た個人情報を他人に知らせ、又は不当な目的に利用しない等、個人情報の保護に関して必要な事項を周知しなければならない。
- (8) 個人情報の適正な管理を行うために管理者を置き、発注者に報告しなければならない。
- (9) 本条各号に違反する事態が生じたとき若しくは生ずるおそれがあることを知ったとき、又は個人情報の取扱いに関し苦情等があったときは、直ちに発注者に報告するとともに、発注者の指示に従うものとする。
- (10) 受注者の責めに帰すべき事由により、個人情報が漏洩又は破損する等、発注者又は第三者に損害を与えたときは、損害賠償の責任を負うものとする。

(遅延利息)

第 69 条 受注者は、契約書に定める賠償金、損害金又は違約金を、発注者の指定する支払期日を経過して支払わないときは、発注者に対し、遅延損害金を支払う。

2 前項の遅延損害金は、賠償金、損害金又は違約金に、発注者の指定する支払期日の翌日から支払済みまで、法定率の遅延利息をもって計算する（千円未満は切り捨てるものとする。）。かかる計算は、遅延利息支払時における遅延防止法第 8 条 1 項に規定する遅延利息の額を超えないものとする。

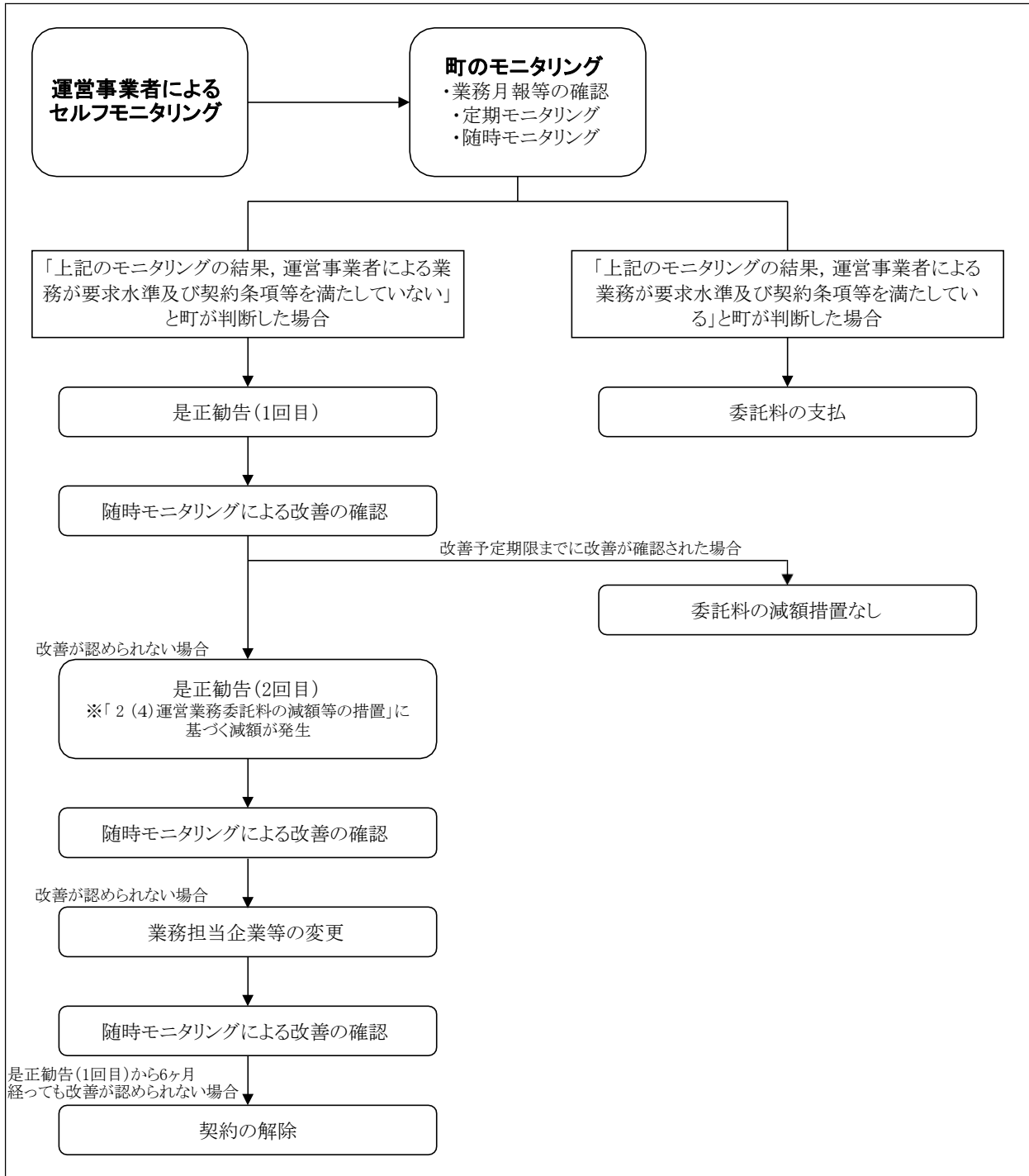
(誠実協議)

第 70 条 契約書の各条項等の解釈について疑義を生じたとき又は契約書に特別の定めのない事項については、発注者及び受注者は、誠実協議の上、これを定めるものとする。

(以下余白)

1 運営管理委託期間中の業務水準低下に関する措置

本事業における運営管理委託期間中の業務水準低下に関する措置は、次に示すとおりとする。



2 モニタリングの方法

モニタリングは、運営管理業務委託料の減額を目的とするものではなく、発注者と受注者との対話を通じて、本事業が安定して継続できるよう実施状況を一定の水準に常に保つことを目的に実施する。

(1) セルフモニタリング実施計画書の作成

受注者は、運営管理業務委託契約の本契約としての成立後、次の項目を含むセルフモニタリング実施計画書を作成し、発注者の承諾を得ること。

- ① モニタリング時期
- ② モニタリング内容
- ③ モニタリング組織
- ④ モニタリング手続
- ⑤ モニタリング様式

(2) 発注者によるモニタリングの方法

本事業における運営管理業務のモニタリングについては、次のとおりとする。ア業務月報等の確認

発注者は、受注者の運営管理業務委託契約、要求水準書等に定める業務内容の実施状況を、受注者から発注者へ提出される業務月報等で確認する。

ア 定期モニタリングと随時モニタリング

発注者は、月 1 回、本施設の現場調査を行い、受注者から提出された業務月報等の記載内容、契約の履行状況について確認を行う（定期モニタリング）。その他、随時必要に応じて、発注者は本施設の現場調査を行い確認する（随時モニタリング）。

(3) 業務の改善についての措置

ア 是正勧告（第 1 回目）

発注者は、上記モニタリングの結果から、受注者による業務が要求水準及び運営管理業務委託契約の各条項を満たしていないと判断した場合には、その内容に応じて適切な次の初期対応を行う。

① 是正勧告

確認された不具合が、繰り返し発生しているものであるか、初発でも重大であると認めた場合、発注者は受注者に適切な是正措置をとることを通告（是正勧告）する。受注者は、発注者から是正勧告を受けた場合、速やかに改善対策と改善期限について発注者と協議を行うとともに、改善対策、改善期限、再発防止策等を記載した業務改善計画書を発注者に提出し、発注者の承諾を得ること。

② やむを得ない事由による場合の措置

やむを得ない事由により要求水準及び運営管理業務委託契約の内容を満たすことができない場合、受注者は発注者に対して速やかに、かつ、詳細にこれを報告し、その改善策について発注者と協議する。受注者の通知した事由に合理性があると発注者が判断した場合、発注者は、対象となる業務の中止又は停止等の変更を認め、再度の勧告の対象としない。

イ 改善の確認

発注者は、受注者からの改善完了の通知又は改善期限の到来を受け、随時のモニタリングを行い、業務改善計画書に沿った改善の実施状況を確認する。

ウ 是正勧告（第 2 回目）

上記イにおけるモニタリングの結果、業務改善計画書に沿った期間及び内容での改善が認められないと発注者が判断した場合、発注者は、受注者に第 2 回目の是正勧告を行うとともに、再度、業務改善計画書の提出請求、協議、承諾及び随時のモニタリングによる改善確認の措置を行う。

エ 業務担当企業の変更等

上記ウの手続を経ても第 2 回目の業務改善計画書に沿った期間及び内容による改善が認められないと発注者が判断した場合、発注者は当該業務を担当している業務担当企業を変更することを受注者に請求することができる。

オ 契約の解除等

発注者は上記エの業務担当企業の変更を行った後、最長 6 ヶ月を経て改善効果が認められないと判断した場合、発注者が本契約の継続を希望しない時には、本契約を解除することができる。

(4) 運営管理業務委託料の減額等の措置

運営管理業務実施の状況により、次に示す委託料の減額措置を行う。

ア モニタリングの結果、発注者が是正勧告（第 2 回目）を行った場合、当該事象に対して第 2 回目の勧告を行った日を起算日（同日を含む。以下同じ。）とし、当該是正勧告の対象となる事象が解消されたことを発注者が認める日まで、年 365 日の日割り計算で受注者に支払う運営管理業務委託料（固定費 i）を減額する。

イ 運営管理業務委託料の減額の程度は、1 件の是正勧告に対して固定費 i の 10%とする。なお、複数の是正勧告による固定費 i の減額の限度は、50%とする。

3 運営管理業務に係る対価の返還

運営管理業務委託料支払後に、業務報告書への虚偽の記載を含む、発注者への虚偽報告が判明し、当該虚偽報告がなければ運営管理業務委託料が減額される状態であった場合、受注者は、減額されるべき運営管理業務委託料に相当する額を返還すること。

この場合、当該減額されるべき運営管理業務委託料を発注者が受注者に支払った日から、発注者に返還する日までの日数につき、法定率の割合で計算した額の違約金を付するものとする。

（以下余白）

別紙2 本施設の規制値（第31条、第32条）

【要求水準書等に基づき記載する。】

(以下余白)

別紙3 運営管理業務委託料（第41条、第42条、第59条）

1 運営管理業務委託料の算定金額

- (1) 本施設に係る運営管理業務委託料等の算定方法
【要求水準書等に基づき記載する。】

2 支払スケジュール

【要求水準書等に基づき記載する。】

3 物価変動等による改定

【要求水準書等に基づき記載する。】

(以下余白)

別紙4 不可抗力の場合の費用分担（第46条）

- 1 発注者と受注者は、不可抗力により本事業に関して受注者に発生した追加費用（不可抗力と合理的な関連性のある追加費用であり、かつ、合理的な金額の範囲内のものを意味する。）を、以下のとおり負担する。
 - (1) 運営管理業務委託料を15で除した金額の100分の1以下の額（不可抗力が数次にわたるときは発注者の一会計年度に限り累積する。）は、受注者の負担とする。
 - (2) (1)を超える額は、発注者の負担とする。
- 2 不可抗力により本事業に関して発注者に生じた費用及び損害は、発注者の負担とする。ただし、第63条に記載される保険に基づき発注者以外の被保険者が不可抗力により保険金を受領した場合で、当該保険金の額が上記の受注者の負担額を超えるときは、当該超過額は、発注者の負担額から控除するものとする。

（以下余白）

別紙5 保険（第63条）

1 第三者賠償責任保険

付保対象：本業務に伴い第三者に与えた損害について、法律上の賠償責任を負担する場合に
被る損害

付保期間：運営管理委託期間

保険金額：提案による

その他：被保険者は受注者とする

2 機械保険（火災を除く）

付保対象：提案による

付保期間：運営管理委託期間

保険金額：提案による

※上記は受注者が付保すべき保険の例示であり、上記以外の保険を付保することを妨げるものではなく、受注者の提案によるものとする。

（以下余白）